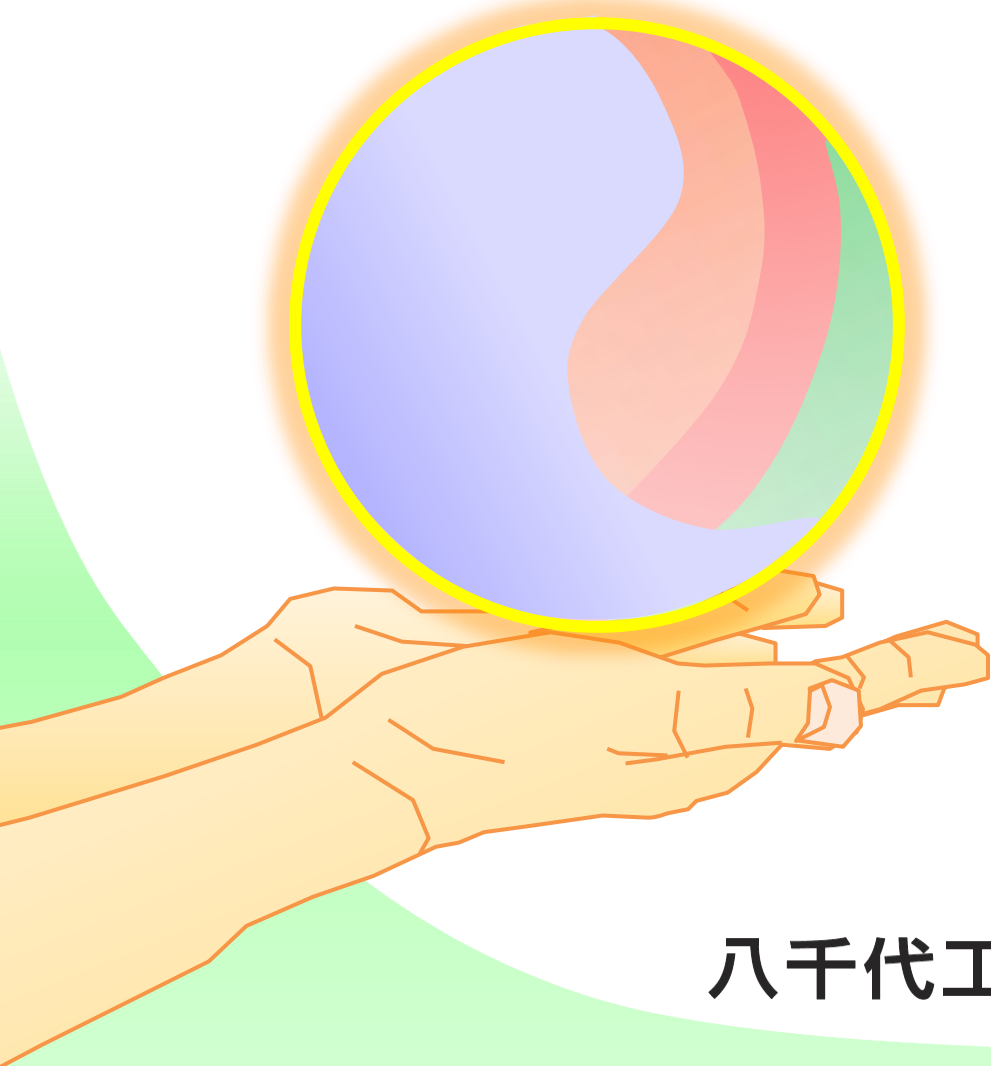


環境報告書

2016



八千代工業株式会社

■集計対象期間

2015年度（2015年4月～2016年3月）

■対象事業所

八千代工業の全事業所と連結子会社を含むヤチヨグループ全体を対象としています。これと一致しない報告内容については、個別に対象を明記しています。

<国内事業所>

八千代工業 国内事業所

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）
鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）
鈴鹿工場 亀山事業所（三重県亀山市）
四日市製作所（三重県四日市市）
栃木研究所（栃木県さくら市）
埼玉研究所（埼玉県狭山市）

国内子会社

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）
株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町、熊本県合志市）

<海外拠点>

八千代工業 海外子会社

(略称)

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）	YOA
イー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）	AYM
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）	USY
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）	YMA
ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー ブイ（メキシコ）	YMM
ヤチヨ ドブラシル インダストリア エ コメルシオ デ ベサス リミターダ（ブラジル）	YBI
八千代工業（中山）有限公司（中国）	YZM
八千代工業（武漢）有限公司（中国）	YWM
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）	SYC
ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）	YIM
ビー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）	YTI

合志技研工業 海外子会社

(略称)

サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）	SGI
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）	GTI
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）	GIA

<対象としていない子会社および関連会社>

対象期間における事業活動を行っていません。

ヤチヨ インダストリー（ユークー）リミテッド（英国）
ラグナ アソシエリアルティ インコーポレーテッド（フィリピン）

対象期間中または期間後の譲渡もしくは設立であり、含めていません。

株式会社ワイジーテック（三重県員弁郡東員町）
株式会社合志テック（熊本県合志市）
ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー（ドイツ）
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

事業活動を現地賃貸事務所で行っており、含めていません。

ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー（ドイツ）

目次

■環境情報の公開

八千代工業は、企業ウェブサイトを通じて環境への取り組みを公開し、本報告書を掲載しています。

八千代工業ウェブサイト「環境への取り組み」
<http://www.yachiyo-ind.co.jp/csr/eco/>



■発行サイクル

年度1回（前回発行：2015年9月30日）

■参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」を参考にしています。

トップメッセージ	03
ヤチヨ環境基本方針／環境マネジメント体制	04
気候変動への取り組み	05
環境トピックス	07
マテリアルフロー	09
法改正などへの対応	10
環境実績	11
環境データ	13



社会からその存在を認められ、 期待される企業を目指して

私たちヤチヨグループは、地球資源を利用し恩恵を享受しながら事業活動を行っており、CO₂排出や廃棄物発生といった環境負荷を地球に与えています。その責務として、法令上の必要性や社会の要求を十分認識し、環境課題を企業戦略の一つとして捉えています。

このような考えのもと、製造業であるヤチヨグループは、製品の軽量化、材料リサイクルの促進、材料ロスの低減、製造工程の効率化などによって、環境に配慮した製品づくりを行っており、積極的に環境活動に取り組んでいます。

写真：柏原工場 樹脂製燃料タンク製造の様子

2015年度は、CO₂排出の低減施策を継続するとともに、温室効果ガス排出への取り組みを強化し、Scopeごとの把握を開始しました。これを施策へ反映させていきます。また事業所個別の環境指標だけでなく、世界の地域セグメントごとの推移を開示しました。いまやヤチヨグループは11カ国26拠点に広がっており、ヤチヨのすべての従業員が共有することで、グローバル企業としてより自覚をもった環境活動につながる考えです。

こういった活動基盤の強化とともに、事業面においても環境に対応した開発を強化してきました。

主力製品である樹脂製燃料タンクにおいては、機能部品内蔵技術を採用した製品の量産を北米で開始しました。また、樹脂製フューエルフィルターパイプを採用した一体型タンクを開発し、物流効率と作業効率の向上を図っています。

サンループにおいては、構成部品の見直しなどを地道に継続し、2018年モデルで約45%の軽量化（2006年比）となる見込みです。

また、高圧タンクの分野においても、NEDOとの共同研究開発である水素ステーション用蓄圧器では、中間評価を経て開発を継続しており、燃料電池車用水素タンクの先行開発とともに、来たる水素社会に向けて着実に進めています。

いま、持続可能な社会の実現が叫ばれる中、変化の激しいモビリティ産業においてヤチヨグループの事業がどのように貢献していけるのか、さらに議論を深めています。世の中のあらゆる人たちから、ヤチヨグループの事業活動はもちろんのこと、その存在を期待されるよう、引き続き事業運営を行っていきます。



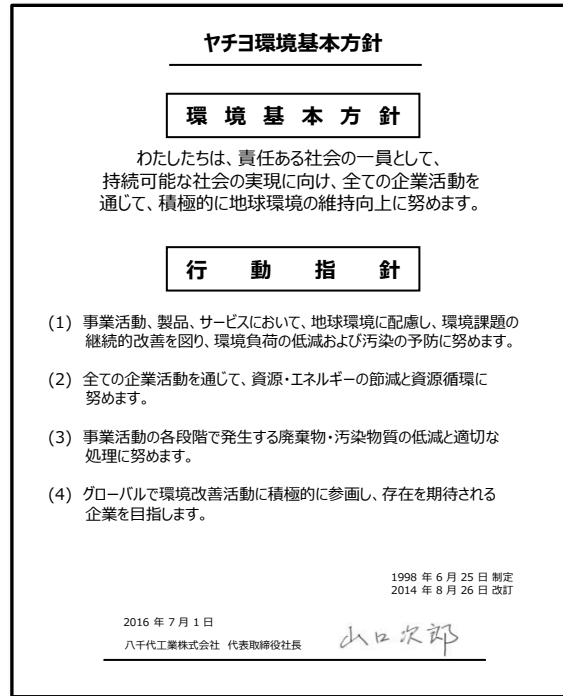
代表取締役社長

山口次郎



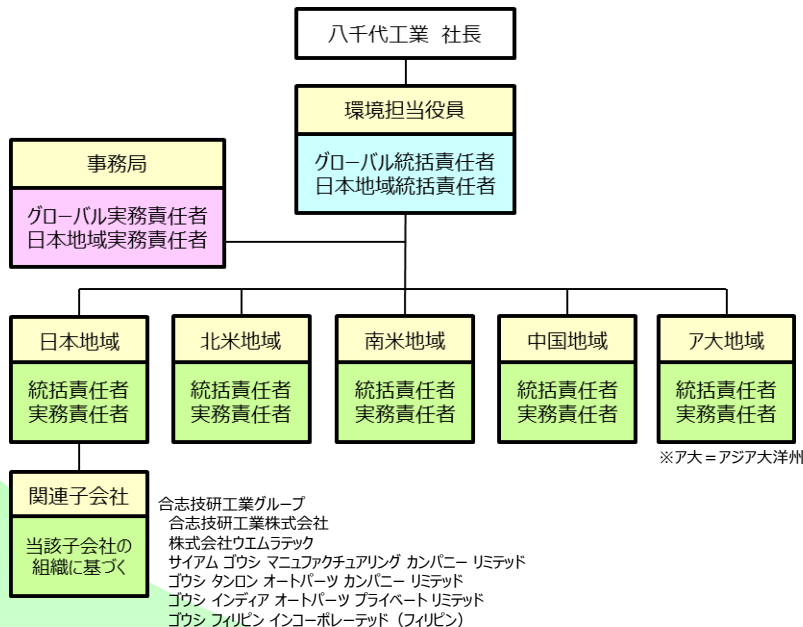
ヤチヨ環境基本方針

ヤチヨは、下記の環境基本方針および行動指針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。



環境マネジメント体制

グローバルヤチヨとして環境への取り組みをさらに実効性のあるものとするため、世界 5 地域で組織し、それぞれに環境統括責任者および環境実務責任者を配置しています。また、国内外すべての事業所に、環境管理責任者および環境推進担当者を配置した運用体制を整備しています。



日本での環境保全活動は、各事業所において決定される環境中期計画と年度目標をもとにした環境マネジメントプログラムに基づいて進められています。

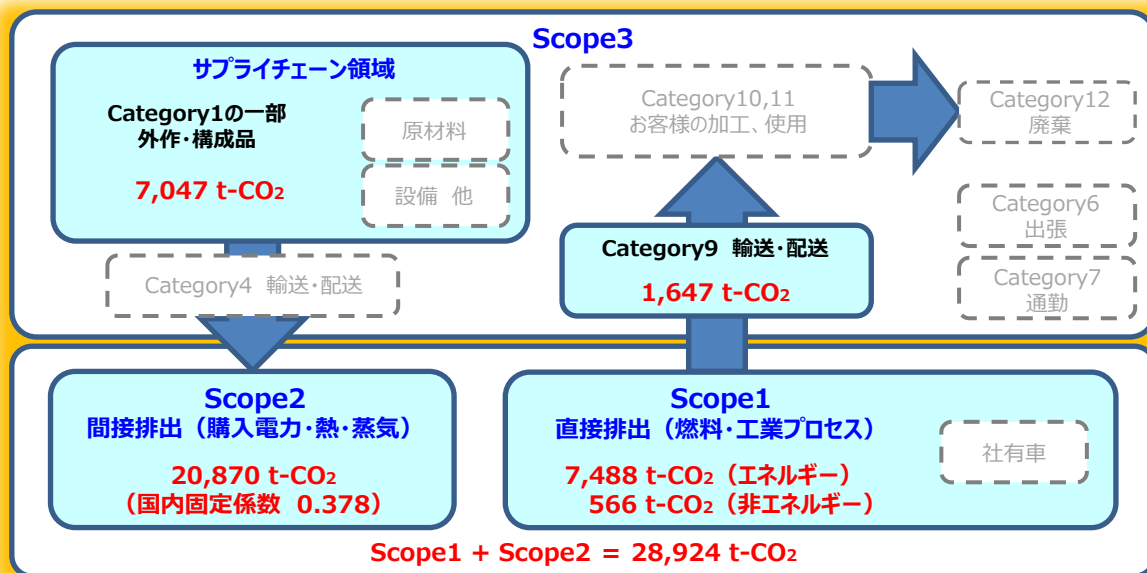


気候変動への取り組み

近年、地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、自社領域におけるエネルギー起源のCO₂排出量のみならず、非エネルギー起源の排出量、Scope3に該当するその他の間接排出量においても把握することにより、今後、サプライチェーンの観点で環境課題へ取り組んでいきます。

●2015年度 温室効果ガス排出量

集計範囲 … 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所



※非エネルギー起源の排出は、第一種特定製品（フロン法定漏えい量）、第二種特定製品（カーエアコンガス充填時漏えい量）及び工業用ドライアイス

●CO₂排出量 低減施策

集計範囲 … 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所

事業環境の変化に影響されにくい削減管理として、施策によって低減したCO₂排出量が把握できるようにしています。

八千代工業 国内事業所を対象に、全施策を環境委員会で一元管理し、全社環境委員会開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を図っています。

主に、エネルギー効率の向上として高効率の新設備への更新、およびロス削減として既存設備の改善を実施し、環境に対するマナーとして取り組む地道な施策も含め、89施策を展開しました。

管理項目	目標	実績
CO ₂ 排出量 低減施策効果	473 t-CO ₂ /年	657 t-CO ₂ /年 (89施策)

2013年度のCO₂総排出量の1.5%（500 t-CO₂）を基準とし、前年度総排出量の増減比率分を反映した目標設定としています。



●CO₂排出量 低減施策事例

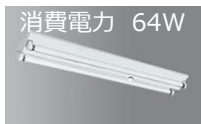
(t-CO₂)

分類	事業所	案件	CO ₂ 削減量
エネルギー効率向上	本社	サーバー結合	12.40
	四日市製作所	フォークリフト更新による燃費向上（4台）	13.84
ロス削減	柏原工場	ステップワゴン向け樹脂製燃料タンク（PFT）成形サイクルタイム短縮	19.20
		PFTロボット メイン電源 休日OFF	14.05
	鈴鹿工場	鉄製燃料タンク塗装焼付炉 炉内熱風口バランス調整	9.95
	亀山事業所	カチオン塗装用55kWコンプレッサー停止	33.07
		PFT成形2号機 冷却水インバーター設定変更	10.38
		自動加工機停止時 コンプレッサー連動停止化	10.00
	四日市製作所	打点集約による溶接ロボット削減（14台）	24.90
		アンダーフロア用シャワーポンプ廃止	11.06

①蛍光灯のLED化（四日市製作所）

四日市製作所では、2013年度から5カ年計画を立てて、事業所内の蛍光灯のLED照明への更新を順次進めています。2015年度は、911灯の蛍光灯をLED照明に更新を実施しました。

既設：
HF32W 2灯式蛍光灯器具



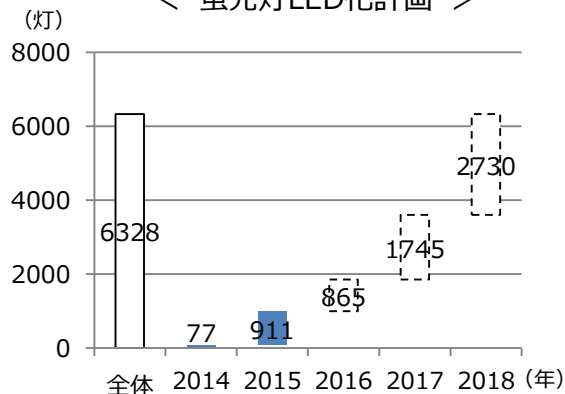
消費電力 64W

更新：
LEDベースライト（HF32W 2灯相当）



消費電力 34.6W

＜ 蛍光灯LED化計画 ＞



CO₂排出量削減効果
42.3 t-CO₂/年

全灯更新完了時
CO₂排出量削減効果
251.0 t-CO₂

②圧縮空気からブローへの変更（亀山事業所）

亀山事業所では、CED塗装ラインのコンベアチェーンや製品ハンガーの結露滴下による品質低下を防ぐエアブローを圧縮空気からブローに変更することにより、55kWコンプレッサーを停止し、補助機の22kWコンプレッサーへの機器縮小を行うとともに、ブローの運転をコンベアと連動させ、電力の削減を行いました。

エアドライヤ 22.0kWコンプレッサー 3.8kWブロー



停止
55.0kW
コンプレッサー

CO₂排出量削減効果
33.1 t-CO₂/年



環境トピックス

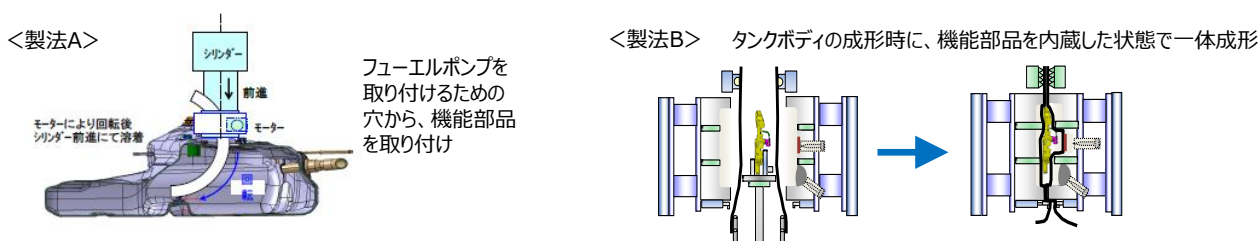
ヤチヨにおける環境に関わるトピックスを紹介します。

樹脂製燃料タンク

ヤチヨグループの主力製品である樹脂製燃料タンク（PFT）では、より少ない資源やエネルギーの投入量で製造できる製品設計をはじめ、材料の再利用、解析や試験のプロセスにおける試作点数の低減などによって、積極的に環境負荷低減に寄与しています。

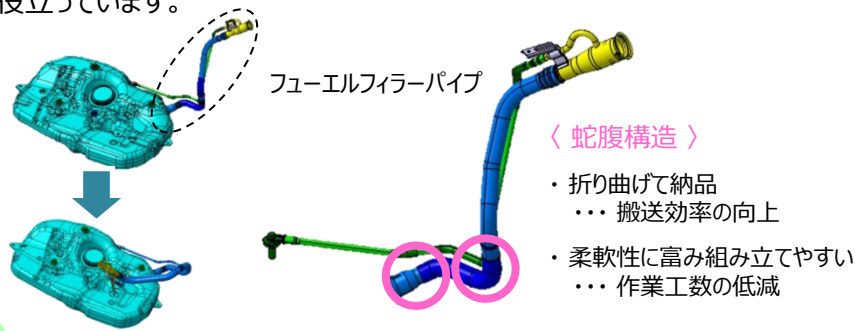
●機能部品内蔵タンクの環境規制対応

PFTを環境規制に対応させるには、空気中に燃料を蒸散させないことが必要です。それには、内蔵する機能部品を、なるべく穴を開けずに取り付けることが重要で、ヤチヨはその製造方法である機能部品内蔵技術の開発を進めてきました。この生産技術を適用したPFTの量産が、2016年の北米の機種から開始しています。



●蛇腹構造の樹脂製フューエルフィルターパイプを採用

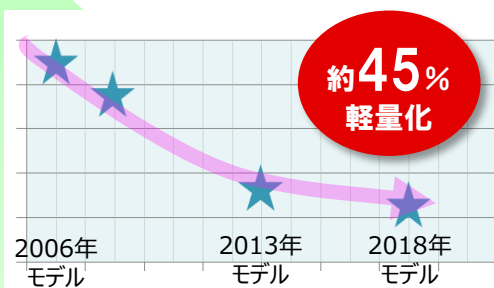
フューエルフィルターパイプを従来の鉄製から樹脂製に変更した一体型のPFTを開発し、2015年秋からグローバルで生産を開始した2016年モデルのHondaシビックに採用されています。組み立てやすさから工数低減につながるだけでなく、新たに取り込んだパイプ部の荷姿効率を損なわないことから、サプライチェーンにおける搬送効率の向上にも役立っています。



納品荷姿

サンルーフ

ヤチヨグループのもう一つの主力製品であるサンルーフでは、構成部品の複合化によって部品点数を低減するなど、材料やエネルギーの使用量低減に取り組んでいます。また、構成部品の見直しなどによって軽量化を追求し、クルマの低燃費化に貢献していきます。



2006年モデルに対し、2018年モデルでは約45%の軽量化を達成する見込みです。



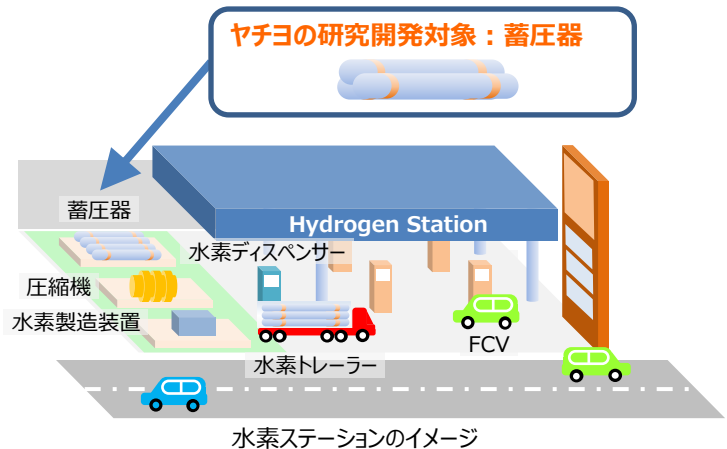
エネルギーストレージ

ヤチヨは、自動車用の樹脂製燃料タンク（PFT）で培ってきた技術やノウハウを活かし、多様なエネルギー源を貯蔵する装置を製造する「エネルギーストレージメーカー」を目指しています。将来的には、水素を貯蔵する高圧タンクを手がけ、来る水素社会に貢献していきたいと考えています。

●水素ステーション用蓄圧器の開発

現在、水素をエネルギー源とする燃料電池車への期待が高まっており、水素ステーションの普及が急がれています。その実用化に向けては、建設費と供給量に課題があり、ヤチヨは蓄圧器に求められる低コスト化、大型化を実現するために、樹脂ライナーコンポジット容器の研究開発を進めています。

ヤチヨが参画している国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）における、水素ステーション用蓄圧器の開発については、2015年9月の「水素利用技術研究開発事業」（中間評価）分科会においてヤチヨの取り組みが評価され、引き続き開発を行っていきます。



教育・啓蒙活動

エネルギーの効率的な利用や資源の再活用など、地球環境の保全に対して、ヤチヨグループでは従業員の意識をより高く維持するため、さまざまな取り組みを行っています。地球の恩恵を受けているのは私たち一人ひとり。全員参加で、環境活動に取り組んでいます。

●環境教育

本社・柏原工場・埼玉研究所では、環境意識の向上を図ることを目的として、2014年度から環境講話を実施しています。2015年度は埼玉県職員を講師として招き、「水素エネルギーの利用」というテーマを、受講しました。ヤチヨはエネルギーストレージメーカーとして水素関連の研究開発を行っており、地球環境および水素社会の実現に向けた国や県の政策を学ぶ、大変いい機会となりました。



開催	環境講話テーマ	受講人数
2014年度 (1/28)	地球温暖化 ～影響と対策	27名
2015年度 (12/9)	水素エネルギーの利用	58名



マテリアルフロー

資源・エネルギーの投入量（Input）と排出量（Output）を把握し、環境活動に役立てていきます。

※ 対象：八千代工業 国内事業所（本社、柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所）

Input

エネルギー

原油換算	17,967	kL
電力（買電）	55,546	MWh
灯油	27	kL
軽油	0.1	kL
LPガス	13,890	kg
都市ガス	3,219	千m ³
電力（太陽光）	19	MWh

原材料

鋼材	26,462	t
樹脂材	6,354	t

水資源

地下水	84,207	m ³
工業用水	16,765	m ³
上水	60,047	m ³

化学物質

取扱量	371.7	t
-----	-------	---

事業活動

管理

営業

生産活動

購買

研究開発

部品事業

完成車事業

Output

排出

CO ₂	28,237	t-CO ₂
排水	141,823	m ³
NO _x	2.99	t
SO _x	0.01	t

廃棄物

産業廃棄物	836	t
直接埋立処分	0	t
社外リサイクル 有価物 (鋼材スクラップおよび樹脂材)	529	t
	12,120	t

化学物質

VOC排出	323.8	t
PRTR対象物質排出	116.2	t

<用語の説明>

- NO_x … 窒素酸化物
 SO_x … 硫黄酸化物
 VOC … Volatile Organic Compounds
 = 揮発性有機化合物
 PRTR … Pollutant Release and Transfer Register
 = 化学物質排出移動量届出制度



法改正などへの対応

ヤチヨは、環境関連の法律および各事業所所在地の地方条例に対し、その改正情報を把握し、適正に対応を実施しています。

●フロン法改正（平成26年6月改正、平成27年4月施行）

「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊に関する法律」が、平成26年6月に改正され、「フロン類の使用合理化及び管理の適正化に関する法律」と名称を改め、平成27年4月に施行されました。

事業者は、第1種特定製品の簡易点検（1回／四半期）、一定規模以上の機器においては、有資格者による定期点検（1回／年または1回／3年）が義務化され、整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000 t-CO₂（GWP※によるCO換算）以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となりました。

ヤチヨでは、法律の施行に対して、全社で改正情報の共有を図るとともに、機器のリスト化、点検表の整備を行い全事業所で法律への対応を行ってきました。2015年度の算定漏えい量は下表の通り、報告義務はありませんでした。

事業所	分類	形式	整備区分	フロン類	GWP ※	回収量 (kg)	充填量 (kg)	算定漏えい量 (t-CO ₂)
柏原工場	冷凍冷蔵 ユニット	KCW-30f	定期点検	R22	1,810	2.3	2.4	0.2
四日市製作所	冷凍冷蔵 ユニット	19DH410	定期点検	R11	4,750	482.0	500.0	85.5
	冷凍冷蔵 ユニット	19DE500S	定期点検	R11	4,750	600.0	650.0	237.5
	パッケージ エアコン	RAS- NP900FS	修理	R410A	2,090	3.5	12.0	17.8
	パッケージ エアコン	RYJ112F	修理	R22	1,810	0.0	4.5	8.1
栃木研究所	空調用 チャラー	PUHY- HP224SC M-E1	定期点検	R410A	2,090	6.4	6.4	0.0
GWP・・・Global Warming Potential = 地球温暖化係数 ：二酸化炭素を基準に、そのフロン類が温暖化する能力を表した数値								349.1

●四日市市臭気指数規制（平成27年4月告示、平成28年1月施行）

四日市市では、一部地域における臭気規制が、従来の特定悪臭物質（22物質）の濃度測定から、人の臭覚を用いて数値化する「臭気指数規制」に変更されました。四日市製作所は第三種区域（工業専用区域、臭気指数規制値18）に該当し、1号規制（敷地境界）および2号規制（排出口）の測定を臭気指数測定に変更するとともに、1号規制においては、当事業所の臭気影響を把握するために従来の特定悪臭物質の濃度測定も継続して行っています。

特定悪臭物質を使用している当事業所では、臭気排出強度の算出や臭気拡散シミュレーションを行い、さらなる臭気改善に向けた検討を進めています。

指標となる臭気排出強度の算出



臭気拡散シミュレーション

臭気指数測定結果
1号規制 法基準18以下
測定値10未満



環境実績

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、全社方針として環境活動のグローバル展開を進めており、とりわけ気候変動（地球温暖化）、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷のさらなる低減に向けて取り組みを継続しています。

●中期3カ年（2014～2016年度）削減管理目標

※ 対象：八千代工業 国内事業所（本社、柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所）

項目		2014年度	2015年度	2016年度
CO ₂ 総排出量※1		40,500 t-CO ₂ 1990年度比 17%減	39,500 t-CO ₂ 1990年度比 19%減	38,500 t-CO ₂ 1990年度比 21%減
CO ₂ 排出量 原単位※2 (売上原単位)	部品事業	2013年度比 1%減	2013年度比 2%減	2013年度比 3%減
	完成車事業			
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.5%相当分削減)		500 t-CO ₂	473 t-CO ₂	434 t-CO ₂
VOC排出量 原単位※3 (塗装面積当たり原単位)	部品事業	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
	完成車事業			
水資源使用量 原単位※3 (売上原単位)	部品事業	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
	完成車事業			
廃棄物量 原単位※3 (売上原単位)	部品事業	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
	完成車事業			

※1 CO₂総排出量は、業界団体（一般社団法人 日本自動車工業会、一般社団法人 日本自動車車体工業会）の公表値2020年目標28%削減（1990年比）に準じ、長期目標を設定して排出量管理を実施。

※2 CO₂排出量原単位の目標は、本田技研工業の指標に基づき、基準年度を2013年度に設定。

※3 VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、毎年、連続して低減していきたいという観点から、前年度比1%減を設定。



●2015年度 環境負荷実績

※ 対象 : 八千代工業 国内事業所 (本社、柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、四日市製作所、栃木研究所、埼玉研究所)

達成度判定 : ○=95%以上 △=80%以上 ×=80%未満

項目		目標	実績	達成度
エネルギー起源CO ₂ 総排出量 (2020年長期目標に基づく中期目標) ※2020年度目標 1990年度比29%減 34,500 t-CO ₂		39,500 t-CO ₂ 1990年度比 19%	28,237 t-CO ₂	○
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	部品事業	2013年度比 2%減	10.5%増	△ レビュー①
	完成車事業		7.8%増	△ レビュー②
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.5%相当分削減)		473 t-CO ₂	657 t-CO ₂ (89施策)	○
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	部品事業	前年度比 1%減	7.1%増	△ レビュー③
	完成車事業		24.6%増	× レビュー④
水資源使用量 原単位 (付加価値額原単位)	部品事業	前年度比 1%減	4.4%増	○
	完成車事業		17.2%増	△ レビュー⑤
廃棄物量 原単位 (付加価値額原単位)	部品事業	前年度比 1%減	4.7%減	○
	完成車事業		9.4%増	△ レビュー⑥

電力係数は、日本固定 1 MWh当たり0.378 t-CO₂を使用しています。

○レビュー

- ① 生産量の減少によるエネルギー効率の悪化
- ② 休日出勤に伴う稼働日増加 (16日) による影響
- ③ 大物部品の生産量減少に伴う塗装効率の悪化
- ④ S660生産比率増に伴うメタリック塗装の増加
- ⑤ 休日出勤に伴う稼働日増加 (16日) による影響
- ⑥ 休日出勤に伴う稼働日増加 (16日) による影響



地域セグメントごとの環境データ推移

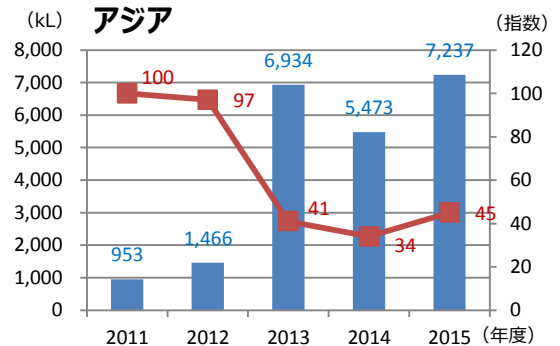
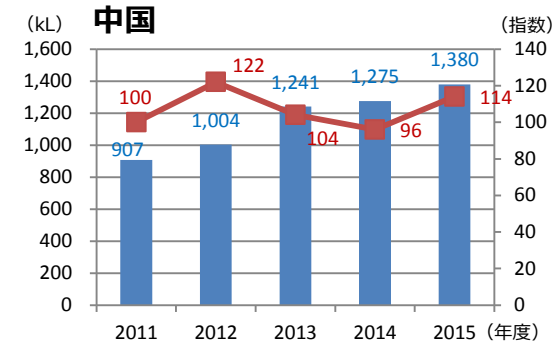
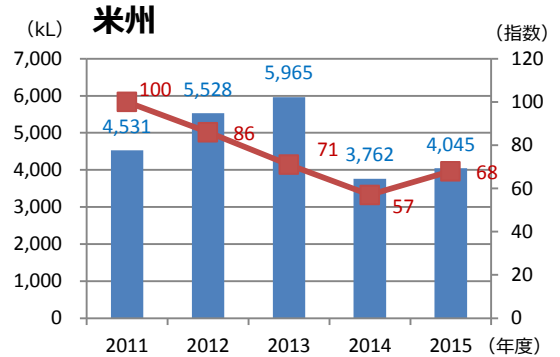
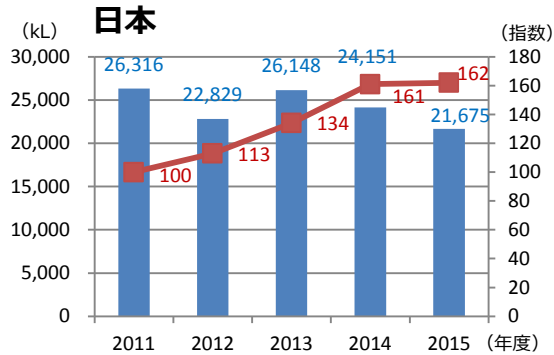
※集計範囲は、すべての環境データ
において右の通りです。

【日本】
合志技研工業グループ 2013年度～
ワイジテック ～2014年度

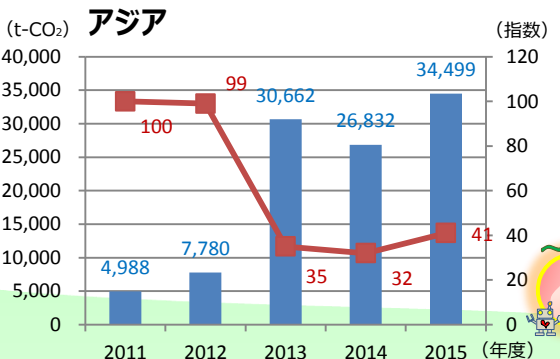
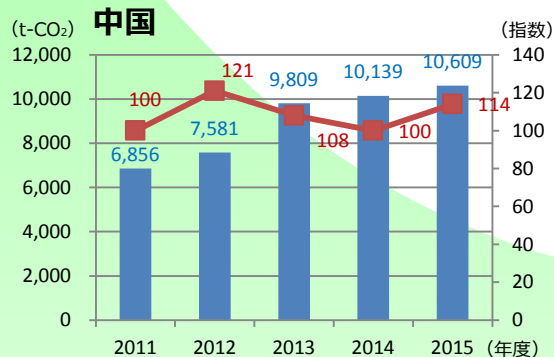
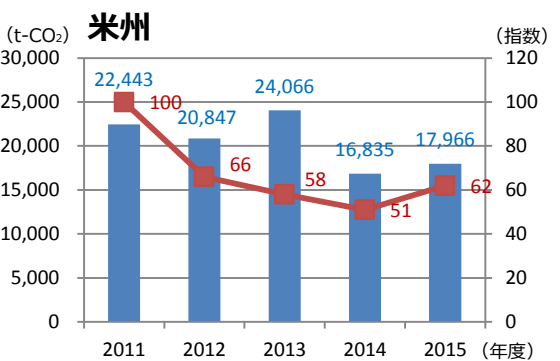
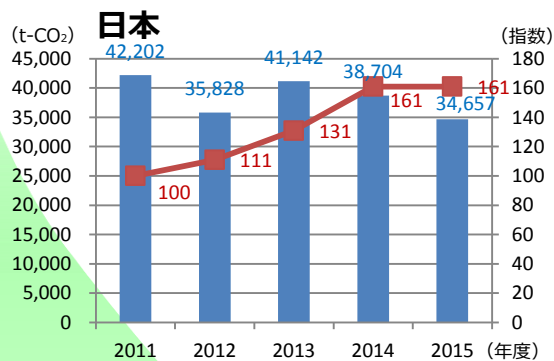
【北米】
Y O M ～2013年度
Y I M 2013年度～

【アジア】
合志技研工業グループ 2013年度～
Y I M 2012年度～
Y T I 2013年度～

●エネルギー投入量



●CO₂排出量



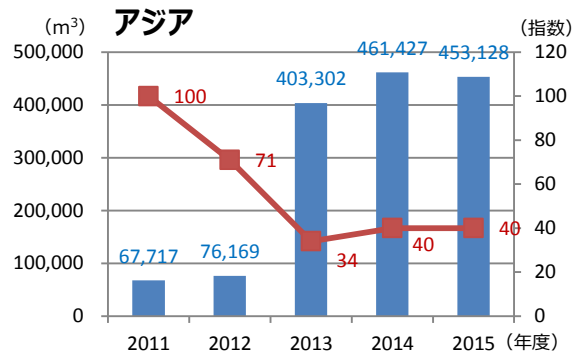
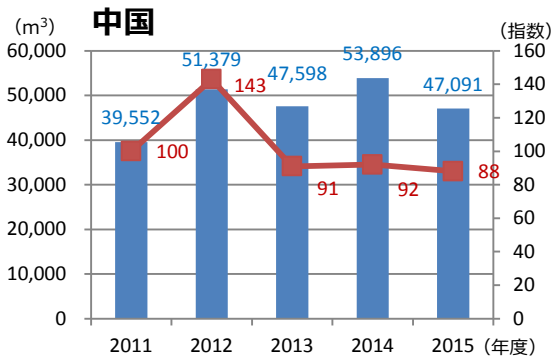
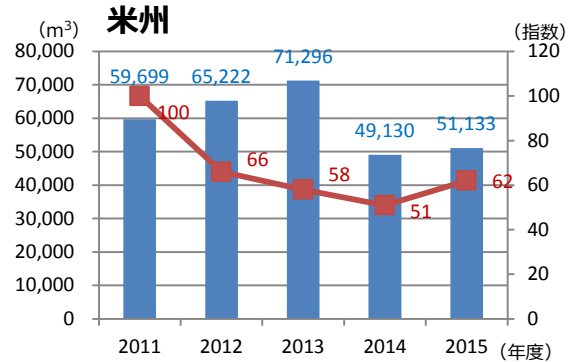
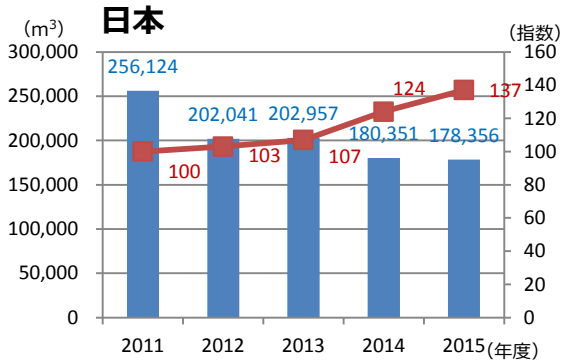
※集計範囲は、すべての環境データで次の通りです。

【日本】
合志技研工業グループ 2013年度～
ワイジテック ～2014年度

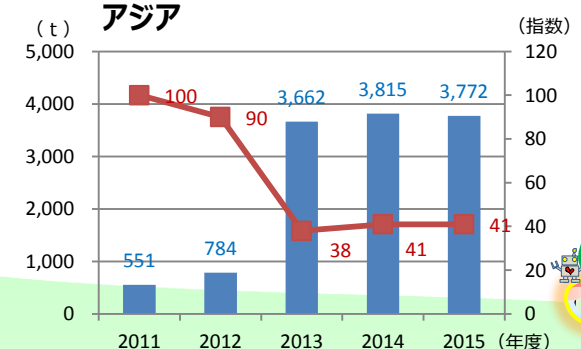
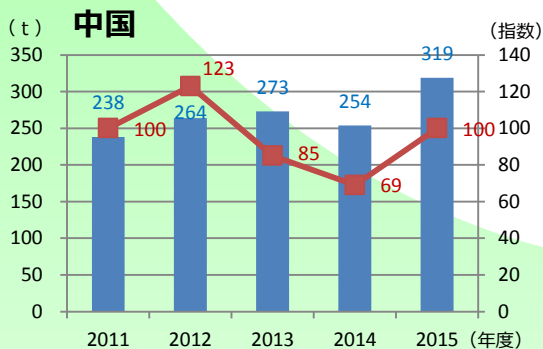
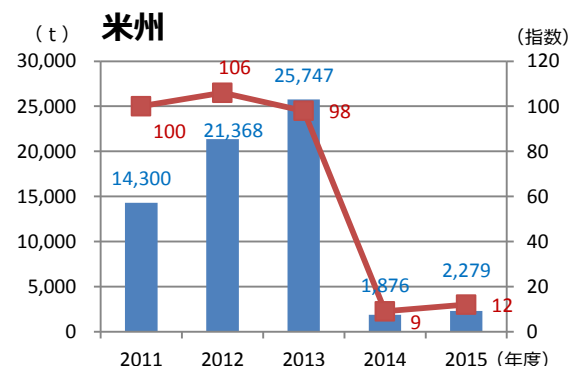
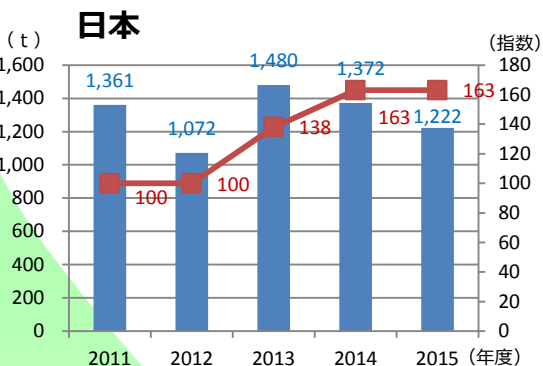
【北米】
Y O M ～2013年度
Y I M 2013年度～

【アジア】
合志技研工業グループ 2013年度～
Y I M 2012年度～
Y T I 2013年度～

●水資源使用量



●廃棄物量



すべての拠点のエネルギーと廃棄物

● 日本地域

■ 本社・柏原工場

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	10,666 MWh	処分量	128 t
プロパンガス	10,881 kg		
都市ガス	230 千m ³		
水	24,500 m ³	従業員数	297名
		臨時従業員	18名

■ 鈴鹿工場 亀山事業所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	8,083 MWh	処分量	217 t
都市ガス	382 千m ³		
水	12,829 m ³	従業員数	132名
		臨時従業員	5名

■ 栃木研究所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,531 MWh	処分量	118 t
プロパンガス	2,502 kg		
灯油	27 kL		
水	6,771 m ³	従業員数	140名
		臨時従業員	33名

● 北米地域

■ ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	1,279 MWh	処分量	4 t
天然ガス	19 千m ³		
水	416 m ³	従業員数	56名
		臨時従業員	0名

■ 鈴鹿工場

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,987 MWh	処分量	43 t
都市ガス	614 千m ³		
水	18,609 m ³	従業員数	82名
		臨時従業員	5名

■ 四日市製作所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	24,801 MWh	処分量	309 t
都市ガス	1,993 千m ³		
水	93,326 m ³	従業員数	515名
		臨時従業員	94名

■ 埼玉研究所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,478 MWh	処分量	21 t
プロパンガス	507 kg		
水	4,867 m ³	従業員数	198名
		臨時従業員	10名

■ エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,811 MWh	処分量	667 t
プロパンガス	15,339 kg	従業員数	330名
天然ガス	610 千m ³	臨時従業員	57名
軽油	0.9 kL		
水	19,640 m ³		



■ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	18,123 MWh	処分量	216 t
プロパンガス	40,342 kg		
天然ガス	94 千m ³		
軽油	9 kL		
水	10,998 m ³	従業員数	153名
		臨時従業員	25名

■ヤチヨ メキシコ マニファクチュアリング
エス エー デー シー ブイ（メキシコ）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,350 MWh	処分量	614 t
軽油	2 kL		
水	14,194 m ³	従業員数	138名
		臨時従業員	0名

●中国地域

■八千代工業（中山）有限公司（中国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	8,387 MWh	処分量	255 t
天然ガス	24 千m ³		
ガソリン	16 kL		
軽油	0 kL		
水	25,440 m ³	従業員数	411名
		臨時従業員	0名

●アジア大洋州地域

■サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	8,397 MWh	処分量	294 t
プロパンガス	99,258 kg		
水	70,436 m ³	従業員数	362名
		臨時従業員	0名

■ヤチヨ マニファクチュアリング
オブ アメリカ エル エル シー（米国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	7,333 MWh	処分量	581 t
プロパンガス	0 kg※		
水	4,134 m ³	従業員数	75名
		臨時従業員	0名

※ プロパン燃料フォークリフトをバッテリーフォークリフトに変更

●南米地域

■ヤチヨ ドブラジル インダストリア エ コメルシオ
デ ペサス リミターダ（ブラジル）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,010 MWh	処分量	197 t
プロパンガス	2,450 kg		
軽油	0.5 kL		
水	1,751 m ³	従業員数	40名
		臨時従業員	0名

■八千代工業（武漢）有限公司（中国）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	5,879 MWh	処分量	64 t
天然ガス	9 千m ³		
ガソリン	15 kL		
軽油	1 kL		
水	21,651 m ³	従業員数	305名
		臨時従業員	0名

■ヤチヨ インディア マニファクチュアリング
プライベート リミテッド（インド）

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,198 MWh	処分量	— t※
ガソリン	29 kL		
軽油	100 kL		
水	2,880 m ³	従業員数	39名
		臨時従業員	23名

※ 地域行政によって一般廃棄物となっていることによる



■ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

「エネルギー資源」		「廃棄物」	
電気	2,046 MWh	処分量	27 t
軽油	0.1 kL		
水	10,941 m ³	従業員数	56名
		臨時従業員	0名

●関連子会社

■合志技研工業（日本）

「エネルギー資源」		「廃棄物」	
電気	5,247 MWh	処分量	365 t
プロパンガス	144,309 kg		
灯油	682 kL		
ガソリン	10 kL		
軽油	0.77 kL		
A重油	186 kL		
水	17,454 m ³	従業員数	320名
		臨時従業員	3名

■ウエムラテック（日本）

「エネルギー資源」		「廃棄物」	
電気	4,541 MWh	処分量	20 t
プロパンガス	14,887 kg		
灯油	1.6 kL		
ガソリン	4.8 kL		
軽油	2.3 kL		
水	3,267 m ³	従業員数	135名
		臨時従業員	55名

■サイアム ゴウシ マニユファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）

「エネルギー資源」		「廃棄物」	
電気	17,491 MWh	処分量	1,400 t
プロパンガス	38,304 kg		
灯油	9 kL		
ガソリン	49 kL		
軽油	7 kL		
水	230,715 m ³	従業員数	935名
		臨時従業員	345名

■ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）

「エネルギー資源」		「廃棄物」	
電気	5,172 MWh	処分量	— t※
軽油	1312 kL		
水	1,800 m ³	従業員数	282名
		臨時従業員	390名

※ 地域行政によって一般廃棄物となっていることによる

■ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）

「エネルギー資源」		「廃棄物」	
電気	16,467 MWh	処分量	2,051 t
プロパンガス	559,220 kg		
ガソリン	41 kL		
軽油	55 kL		
水	136,356 m ³	従業員数	1,290名
		臨時従業員	124名



<環境報告書2016デザインコンセプト>



2015年度の環境活動では、気候変動への取り組みを強化しました。

これを機に、「地球と太陽」を日本の四季の色で表しました。

人の手で守られた地球が、子どもたちの大好きな「シャボン玉」のように広がり、太陽の光を浴び、次の世代を象徴する「花の種」へと成長するまでの一連の流れを表現しています。



デザイン：事業企画室 広報ブロック 田村 博史



当社は、2014年2月に日本政策投資銀行（DBJ）より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが十分」と評価されました。

■編集

全社環境委員会

委員長 本告 次男

事務局 倉田 周市

管理本部 事業企画室 広報ブロック 奥田 達之

■お問い合わせ

管理本部 総務部

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393

TEL 04-2955-1211（代表）

FAX 04-2955-1217

発行	八千代工業株式会社
発行責任者	総務部長 根岸 昭雄
発行日	2016年 9月



環境報告書 2016

八千代工業株式会社

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393